資料３

✓ 中学生や県民を対象とした意見交換会及び、市町村長や市町村教育委員会教育長、PTA関係者等を対象とした地区別高校在り方懇話会を開催した。各圏域における実績は下記のとおり。

名称	対象	実施期間	実施回数等
中学生への意見聴取	中学生	①令和8年7月10日～7月16日	5圏域／5回／計16人
		②令和8年9月9日～9月16日	5圏域／5回／計17人
県民との意見交換会	県民	①令和8年7月25日～8月2日	5圏域／5回／計49人
		②令和8年10月24日～11月7日	5圏域／5回／計60人
地区別高校在り方懇話会	市町村長 市町村教育委員会教育長 PTA関係者　等	①令和8年7月10日～7月15日	5圏域／4回／計78人
		②令和8年10月23日～10月29日	5圏域／4回／計68人

1　主な御意見の概要
・中学生への意見聴取 ……3
・県民との意見交換会 ……4
・地区別高校在り方懇話会 ……6

2　中学生への意見聴取
・ オンライン教育 ……8
・ 学校規模 ……10
・ 通学時間・距離 ……13
・ 高校で興味・関心のある学びや活動 ‥15
・ その他 ……18

3　県民との意見交換会
・ 高校魅力化・学びの在り方 ……19
・ 拠点校・オンライン ……22
・ 通学手段 ……23
・ 学校規模 ……24
・ 学級規模 ……25
・ 転入・編入等 ……26
・ 学校に登校していない生徒への対応 ‥27
・ 義務教育との連携 ……28
・ 生徒を主語にした高校教育の実現 …28
・ 学区の在り方 ……29
・ 教職員の確保 ……29
・ その他 ……30

4　地区別高校在り方懇話会
・ 高校魅力化・学びの在り方 ……32
・ 拠点校 ……35
・ 学校規模 ……36
・ 通学手段 ……37
・ 義務教育との連携 ……38
・ 周知・理解促進 ……39
・ 多様な学びの在り方 ……40
・ 転入・編入等 ……41
・ その他 ……42

中学生への意見聴取における主な御意見の概要

＜オンライン教育＞

○ オンラインで授業を受けられるようになることで、専門の先生から授業を受けられ、勉強の質が上がりそう。
○ すべてをオンライン化するのではなく、対面授業が適している内容と、オンラインで実施できる内容を分けるべき。

＜学校規模＞

○ 40人×5クラスの200人程度の規模が良い。
○ 高校ではさまざまな人と出会うことが社会人になったときにもよい経験になると思う。
○ 少人数の方が先生方も目が届きやすいと思う。

＜通学時間・距離＞

○ 通学時間は1時間くらいを目安にしている。
○ 高校は近い方が理想だが、本当にやりたいことができる高校であれば、多少遠くても通いたい。

＜高校で興味・関心のある学びや活動＞

○ 学校の中だけでなく、実社会とつながりながら学べる環境が理想。
○ 高校は偏差値だけでなく、数学Ⅲの授業や、理科・数学に力を入れているかなどのカリキュラムを重視したい。
○ 学力の近い仲間と切磋琢磨しながら学びたい。

県民との意見交換会における主な御意見の概要

＜高校魅力化＞

○　どうすれば生徒から選ばれる学校になるのかという視点が必要。特別な魅力のある学校を作ってほしい。
○　普通科の充実とともに、専門高校の魅力向上や教育の充実についても検討いただきたい。

＜オンライン＞

○　オンラインを使って受けられる授業の選択肢が増えるのであれば、仙台まで行かなくても勉強ができるというメリットになるのではないか。
○　オンライン授業について、週30時間の授業のうち、2時間から4時間程度ではないか。

＜通学手段＞

○　高校や中学校を検討する上で通学や学習の手段がないと、選択肢が非常に狭まってしまう。
○　公共交通機関の維持や、通学困難地域への対策は合わせて考慮されているのか。

＜学校規模＞

○　定員に余裕がありすぎる状況になると、受験競争も弱まり、学習意欲への影響も心配。一定の緊張感は必要だと思う。
○　少人数すぎるとクラス替えもなく社会に出たとき怖さもあるので、ある程度の人数を集めたほうが良い。
○　あまり大規模になり過ぎない方が、生徒にとって良い面もあると思う。

＜学級規模＞

○　少人数化を図り、現在の学級数を維持することはできないのか。
○　県独自に少人数学級を進めていくというビジョンはないか。

県民との意見交換会における主な御意見の概要

＜転入・編入等＞

○　専門的な知識を持つ教員を配置し、高校中退を防ぐ取り組みを強化していただきたい。

＜学校に登校していない生徒への対応＞

○　不登校が増えている背景も考えた上で、新しい案を作っていくべき。

＜義務教育との連携＞

○　中学校と高校の連携を強化していただきたい。

＜生徒を主語にした高校教育の実現＞

○　これから通わせる保護者や子どもたちの声を重点的に拾って考えていただきたい。

地区別高校在り方懇話会における主な御意見の概要

＜高校魅力化・学びの在り方＞

○　公立高校においても、宮城大学等との強い接続を示すことができれば、公立高校の大きな強みと魅力になる。

○　「高校でこういうことを学んだから、大学卒業後は地元に戻って働こう」と思えるような、魅力ある高校づくりを進めていただきたい。

○　職業教育拠点校などを選択した場合であっても、大学進学に対応できる教育環境や学習支援体制をしっかりと整えていただきたい。

＜拠点校＞

○　中部地区以外の圏域で学力を高める拠点を充実させることは、県全体の魅力を高め、一極集中を緩和させることにつながる。

＜学校規模＞

○　少子化による学級減は避けられないと思うが、一定の集団規模は必要だと感じる。

○　子どもたちが競争を経験せずに高校生活を終え、大学受験や就職で初めて厳しい競争に直面した場合のダメージを懸念している。ある程度の競争ができる環境を整えることが望ましい。

＜通学手段＞

○　交通アクセスというのも非常に大きい意味を持つ。

地区別高校在り方懇話会における主な御意見の概要

＜義務教育との連携＞

○　ぜひ小学校・中学校・町のPTA保護者の方々も巻き込んで進めていただければ、よりリアルに繋いでいけるのではないか。

＜周知・理解促進＞

○　今回の再編は現在0～5歳の幼児を持つ保護者に直接関わる問題。早い段階から関心を持ってもらえるような工夫をお願いしたい。

＜多様な学びの在り方＞

○　多様な背景を持つ子供たちの受け皿としての機能も高校の役割に含めていただきたい。

＜転入・編入等＞

○　県立高校から別の県立高校へ柔軟に編入・再チャレンジできるシステムを構築していただきたい。

中学生への意見聴取

＜オンライン教育＞

○ ここにいると交通の便で目指すのが難しかったり、家族が反対してしまったりすることがあるので、**どこにいても同じような教育をオンラインで受けられるというのは嬉しい。**

○ オンライン学習は有効である。ただし、**すべてをオンライン化するのではなく、対面授業が適している内容と、オンラインで実施できる内容を分けるべきである。**生成AIも、使い方によっては役立つため活用を進めるとよい。

○ **オンラインで授業を受けられるようになることで、専門の先生から授業を受けられる、勉強の質が上がりそうだと感じた。**

○ **生徒数が減少して近くの高校がなくなっても、オンラインで授業を受けられれば、学びの機会を確保できると思う。**

○ オンラインのシステムは便利だと思うが、学校の校舎の雰囲気やクラスで学ぶのも高校の楽しみなので、対面でも受けたい。

○ **オンラインにより普段交流のないような人や他校の人と勉強できるのは楽しみが増えると思う。**

中学生への意見聴取

＜オンライン教育＞

○ オンライン授業を受けている生徒も発言できる環境であれば、導入していくのはよいと思う。また、教科書は重いため、デジタル教材を活用するなど、学習環境のデジタル化も必要である。

○ **オンラインは、違う環境の人と意見を共有できる。**全部同じ考えじゃなくて「ちょっと違う考え」があると思うので、それを共有できるのはとてもいいし、そういう学校が増えてほしい。

○ 先生が別の場所からオンラインで授業を配信する仕組みに驚いた。様々な先生の話を聞くことができるのであれば、良い学びのきっかけになると思う。**新しい学び方を知ることができ、高校生活が楽しみになった。**

○ オンライン教育センターで、どこの高校でも同じ授業が受けられたら、すごく便利だし、その仕組みは面白いと思う。

中学生への意見聴取

＜学校規模＞

○ 高校に入学したら、**文学などが好きなので、それについて同じような仲間と一緒に勉強できたら嬉しい。いろんな人の考え方に触れたい。**

○ **40人×5クラスの200人程度の規模が良い。**体育祭や文化祭で盛り上がれる人数がいい。少人数は意見がまとまりやすいといったメリットがあるが、勉強面ではいろんな考えに触れる機会が少ないと感じる。

○ **学校規模はできれば4クラス以上がよい。**小学校のときも最低3クラスはあったため、できれば4クラス程度あってほしい。

○ 学校規模は1クラスだけは避けたい。3クラス以上がよい。**高校ではさまざまな人と出会うことが社会人になったときにもよい経験になると思う。また、クラス替えによる緊張感や楽しさも味わいたい。**

○ **大人数だからこそコミュニケーションの幅が広がる**と思うので、人数が減るのは怖い。

○ **生徒数は多い方がよい。10クラス程度あってもよいと思う。友人がたくさんできる方が、学校生活を楽しめるからである。**

○ **5～6クラス程度がよい。**生徒数が多い方が、自分の性格に合う友人を見つけやすいと思う。

○ 人数が多い学校も楽しそうだと思う。新しい出会いが増えるし、学校が広いことも魅力だと思う。

中学生への意見聴取

＜学校規模＞

○ ある程度、生徒数が多い学校がよい。学校行事や部活動は、人数が少ないと実施できないことがある。一定の人数がいる方が、行事や部活動を充実させられると思う。

○ 勉強も部活も両方力を入れて、どっちも一生懸命できる高校が良いと思う。

○ 部活動や学校行事で地域の方々と交流する機会がある。こうした活動は高校に入ってからも続けられたら楽しいと思うし、人と関わりながら学ぶことの大切さを感じる。

○ 人が減ると人との関わりが少なくなって、社会人になったときに知らない人と話せなくなるのではないか、という心配がある。

○ 大きい学校には多くの人と出会えるという魅力がある。一方で小規模校には顔や名前を覚えやすい良さもあるが、様々な人と関わる経験ができるので、比較的大きい学校の方が良いと思う。

○ 4クラス程度がよい。自分は大人数があまり得意ではないため、4クラス程度がちょうどよいと思う。

○ 私は小学校が全校生徒100人いないくらいの小さな学校だったので、人数が減ることへの不安はあまりない。むしろ人数に合わせた新しい形に変えていけばいいのかなと思う。

○ 学校規模は全員の顔が見たことある程度の、1学年100人から120人くらいが希望。今60人くらいであり、達成感があるのでその倍くらいがいい。少人数の方が先生方も目が届きやすいと思う。

中学生への意見聴取

＜学校規模＞

○　生徒数が減ることで生徒会費の収入が減ったり、運動会などの学校行事の運営が難しくなると思う。

○　学校が統合することによって人数が増えれば、学校行事や部活動が活発になるという良さもあると思う。また、**統合した学校同士の良いところを取り入れることで、さらに魅力的な学校になる可能性もあると思う。**

○　**学級数は4～5学級程度がちょうど良いと思う。学級数が多すぎると全員を把握することが難しくなる。少なすぎると学校行事や部活動の運営に支障が出る可能性がある。**そのため、4～5学級程度がバランスの取れた規模だと思う。

○　**5～6クラス程度がよい。**部活動や学校行事を考えると、競い合う相手やライバルが多い方がよい。**生徒数が多ければ、競技や活動の中で互いに競い合うことができる。**

○　学級数が減少すると、学校行事が心配である。学校行事は、大人になってから振り返っても思い出に残るものだと思う。行事の規模が小さくなり、内容があまり面白くなくなることは残念である。

○　**高校の生徒数はあまり人数が多くなくてもいいと思う。**せっかく仲良くなった友達と離れるのは寂しいので、みんなで仲良く頑張れる環境が良い。

○　小さい頃から少人数の環境で過ごしてきたので、**大人数の学校に馴染めるか少し不安はある。**

○　学校規模は3～4クラス程度がよい。**クラス替えを経験し、さまざまな人と関わる機会が増えることを楽しみにしている。**

○　3～4クラス程度は欲しいが、**これまでずっと1クラスだったため、友達との絆が強いという良さもある。クラス数が増えることで、その関係が変わることには不安もある。**

中学生への意見聴取

＜通学時間・距離＞

○ **通学時間は1時間くらいを目安にしている。**以前、2時間かかる高校を検討したが家族と相談して諦めた。

○ **通学時間は1時間から1時間半程度までは大丈夫だと思う。**2時間を超えると朝早く出なければならず厳しい。部活動を続ける場合は荷物も多く、満員電車も考えると、1時間から1時間半程度が限界だと思う。

○ 現時点では、将来やりたいことが決まっていないため、進路を迷っている。**高校に進学してからさまざまな経験をし、自分のやりたいことを見つけたい。**そのため、普通科に進学して選択肢を広く持つことも考えている。**通学時間は、1時間程度が望ましい。**

○ 近い方がよいが、**遠くても1時間半程度までである。**栗原は公共交通機関が少ないため、特にバスの本数を増やしてほしい。バスに乗り遅れると本当に大変である。

○ 自宅から高校に到着するまでの**総時間で1時間半程度が限度**である。自宅近くから利用できる公共交通機関が少ないため、通学手段を増やしてほしい。公共交通機関が整っていてこそ、遠方の高校にも通学できると思う。

○ 通学時間は部活動に入るかどうかによっても異なる。**運動部に入る場合は、片道1時間程度が限度だと思う。部活動に入らないのであれば、もう少し長くてもよい。**

中学生への意見聴取

＜通学時間・距離＞

○　興味のある分野を調べると仙台方面が多いが、通学や一人暮らしを考えると大変。家族ともあまり離れたくないので、**まずは通える範囲の高校を考えている。**

○　家庭の事情もあるため、**できるだけ徒歩や自転車など自力で通える範囲の学校が良い。**

○　**あまり遠い高校には通いたくない。**負担なく通学できる距離は、30分程度だと思う。

○　なるべく通いやすい場所にある高校が良い。兄が仙台の高校に通っていたが、朝早く出て帰宅も遅く、とても大変そうであった。

○　高校は家から近い方が良い。仙台は遠いと感じるので、通えても大河原や角田あたりまでと思う。また大学を目指せる高校を志望する。

○　高校が統合されると通学距離が遠くなり、さまざまな地域から通うことで通学時間も長くなることが心配である。**新しい高校をつくる場合は、できるだけ通いやすい場所に設置してほしい。**

○　**高校は近い方が理想だが、本当にやりたいことができる高校であれば、多少遠くても通いたい。**

○　**遠くても、自分を高められる学校であれば通いたい。**

○　県内であれば、仙台圏までも通学できると思う。県外の場合は寮生活が必要になる可能性がある。**県内で自分のやりたいことを実現できる高校であれば、遠くても頑張って通いたい。**

中学生への意見聴取

＜高校で興味・関心のある学びや活動＞

○　高校では勉強や実習に力を入れたい。工業高校の機械関係の学科に進学して技術を学び、その後は専門学校などでさらに知識や技術を身に付けたい。将来は機械関係の仕事に就きたいと思っている。

○　実際の社会や地域に出て学べる機会が多い高校が良いと思う。**学校の中だけでなく、実社会とつながりながら学べる環境が理想。**

○　**大崎創成高校**に興味を持った。農産物の栽培だけでなく、加工や販売まで学べることが将来に役立つと思う。**実践的な学習ができる点が良いと思う。**

○　普通科の高校でも、農業や商業など、将来の職業に結び付く学びを選択できるようにしてほしい。高校卒業後の進学や職業を考えると不安になることがあるため、**普通科の中でも将来の職業に役立つ学びを選択できるといい。**

○　将来は建築士になりたい。そのため大学進学を目指して普通科高校に進学し、**学力の近い仲間と切磋琢磨しながら学びたい。**

○　高校では将来の選択肢を狭めないように、勉強だけでなくコミュニケーション能力やAI、パソコンなどの技術も身に付けたい。

○　物を作るだけではなく、それを販売したりプレゼンテーションしたりする力を学べる授業があると良い。また、職場体験の機会も増えると良いと思う。

中学生への意見聴取

＜高校で興味・関心のある学びや活動＞

○ 将来は大学へ進学して資格を取得し、その資格を生かした職業に就きたい。そのため、大学進学を実現できる高校かどうかを重視している。各高校の進路実績を確認し、卒業生がどの大学や専門学校へ進学しているかを高校選びの判断材料にしている。

○ 将来は薬剤師になりたいので、それにつながる学びができれば良い。

○ 建築士を目指している。そのため、高校ではしっかり勉強して、建築士の資格取得につながる大学へ進学したい。

○ 将来は魚の研究者になりたいので、**高校は偏差値だけでなく、数学Ⅲの授業や、理科・数学に力を入れているかなどのカリキュラムを重視したい。**

○ 県外など東京の大学とかの情報を、高校にいながらもっと聞けるような機会があったら楽しいと思う。

○ 高校では**さまざまな人と出会い、自分とは異なる価値観を学びたい。**

○ 高校では、部活動や学校行事にも関わりたいが、勉強を最も頑張りたい。高校でさまざまな体験や人との関わりを通して興味のある分野を探したい。

○ 大学進学よりは就職をメインに頑張りたいと思っているので、**就職に必要なことを学べる高校で、部活にも力を入れたいと思っている。**

中学生への意見聴取

＜高校で興味・関心のある学びや活動＞

○ **将来につながる学びを選択できる高校がよい。**また、学校行事が充実していることも重要である。高校生活を楽しみ、さまざまな思い出をつくりたい。校舎がきれいであることや、校則が厳しすぎず、生活しやすいことも魅力である。

○ 高校を選ぶ際には、学校の雰囲気を最も重視している。オープンスクールで、自分が学びたいことを学べるか、学科、学校行事、部活動などを確認している。また、地域の課題や自然環境など、地域とのつながりを学べる学校にも興味がある。

○ 中学校に入る前は部活動や人間関係に不安もあったが、実際に入ってみると楽しいことがたくさんあった。高校でもいろいろな部活動に挑戦したい。

○ クラブチームで野球をしているため、野球に力を入れている高校、野球が強い高校に進学したい。自宅からある程度離れた高校も考えており、家族と相談している。

○ クラブチームでサッカーをしているため、スポーツについて学べる高校に進学したい。寮に入らず通学できるのであれば、多少遠くても構わない。

○ 今の学校には運動部しかないが、高校では生徒数も増えて部活動の種類も増えると思うので、文化部に興味がある。選択肢が増えることを楽しみにしている。

○ 高校では吹奏楽部に入りたい。高校では生徒数が増えるため、部活動も変わると思う。吹奏楽部などの部活動の様子を重視したい。

中学生への意見聴取

＜その他＞

○　学びの内容については限られたクラス数の中で考える必要があるため難しい部分もあるが、**バランスは良いと感じる。**今後、工業系や商業系にどのくらいの生徒が興味を持っているかも、学科配置を考える上で重要なのだと思う。

○　**定時制の学級数が、想像していたより多い**と感じた。

○　工業系や農業系の学級数が、比較的多いと感じた。

○　専門学科を選ぶことにはハードルの高さを感じる。普通科の学びと専門的な学びを組み合わせるなど、最初から一つの分野に限定せず、**複数の分野を学べる仕組みがあれば、専門学科を選びやすくなる**と思う。

○　学びの内容については、普通系と専門系のバランスを考える必要がある。人口減少により専門系の学びを選ぶ生徒が減る可能性があるため、普通系を少し減らしてでも、機械・農業・水産など、将来地域に必要となる専門系の学びを残した方がよい。

県民との意見交換会

＜高校魅力化・学びの在り方＞

○　今後は学校を減らす議論だけではなく、**どうすれば生徒から選ばれる学校になるのかという視点が必要。地域の特色を生かした学びや、地域課題解決型の学習などをもっと充実させるべき。**

○　**農業、商業、水産などの専門高校は、将来の経営的視点を考慮すると、ある程度まとめて一体的に学ぶ必要があるのではないか。**

○　先日、大学生に高校選びや通学について話を聞いた。通学時間（1時間程度）や距離は友達と通うためそれほど苦にならず、**高校選びの基準は「学びたい内容」「偏差値（学力）」「家からの距離」**の3点であった。子供たちは時代の変化に柔軟に対応して成長していくので、大人の役割は建物や学校の存廃だけでなく、地域自体の魅力をどう作っていくかだと感じた。

○　少子化による学校減少は避けられない現状だからこそ、「子供たちのせいではない少子化」をネガティブに伝えるのではなく、生徒一人一人のウェルビーイングや明るい未来にどうつながるかというポジティブな視点で伝えることが大切。

○　学校がなくなるからこそ、近くの学校にとりあえず行くのではなく、「将来何をしたいか」を真剣に考えるようになり、遠くても特色ある学校を選ぶようになるのではないか。地元に産業系の学校があることは、地域の商店や企業で活躍する人材育成にも重要。

○　地域の生徒が進学のために流出している現状を見ると、**何とか地域に残れる魅力ある仕組みを作ってほしい。また、生徒数が減ることで部活動などの選択肢も減っている。やりたい活動ができないために仙台へ進学する生徒もいる。そうした教育環境の充実も重要。**

県民との意見交換会

＜高校魅力化・学びの在り方＞

○　気仙沼の子供たちが地元に残って地元の学校に通うのを求めているが、今は仙台やよその学校、通信制を選ぶ子も多い。地元に残る子ってどのくらいのか。**気仙沼にある1校の中で色んな選択肢がある学校であれば、逆によそからも『気仙沼のあの学校に行きたいな』と思えるような魅力ある学校に気仙沼の高校をしていただいて、地元の子供たちがここに残って通おうと思ってくれるような学校にしていただきたい。**

○　せっかく気仙沼に学校を準備しても、魅力がなければ仙台に流れてしまう。**中学校3年生が「頑張って入らなければならない」と思える、特別な魅力のある学校を作ってほしい。**よそから気仙沼に来るくらいの魅力があれば良い。

○　工業系や水産系のクラス数が減少していく見込みとなっている点については、**普通科の充実とともに、専門高校の魅力向上や教育の充実についても検討いただきたい。**

○　今回提示された計画案では、気仙沼圏域だけ専門学科における「農業系」の学びが含まれていない。圏域内には、昔から農業科や産業技術科、総合学科の中で農業教育が行われてきた。

○　今後は全国から生徒を募集するという考え方も必要ではないか。地域には魅力的な学びの素材があり、寮や下宿などの体制が整えば、県外から生徒を受け入れることも可能だと思う。地域みらい留学のような取組をもっと進めてもよいのではないか。

○　全国募集は全国で500校以上がやっていて生徒の取り合いになっている。県レベルでしっかり予算や誘致、寮の整備などを自治体と一緒にやっていかないと太打ちできない。

県民との意見交換会

＜拠点校・オンライン＞

○　地域拠点校でオンライン授業などを併用し、仙台まで行かなくても同等の質の高い授業が受けられる環境を作れば、地元に残る生徒も増えると思う。

○　オンライン教育センターについて、ナンバースクールのハイレベルな授業を配信するというやり方は、**先生と生徒の触れ合いが希薄になり置き去りになる生徒が増えるのではないか。**

○　進学を希望する生徒が地域外へ流出する状況が続けば、生徒数減少がさらに加速すると思う。**学力向上や進学実績の向上を地域高校の魅力として打ち出していく必要があるのではないか。**

○　**栗原地域としては「大崎地域に吸収されてしまうのではないか」という不安がある。**栗原の子どもたちは古川にも多く進学しているし、学力上位層も少なくない。地域として進学需要がないわけではないので、十分考慮してほしい。

○　登米市には身近に目標となるロールモデルが存在しないという課題がある。本来であればもっと能力を伸ばせるはずの生徒が、挑戦せずに終わってしまう現状を打開する必要がある。だからこそ、**仙台周辺の高校生や大学生と上手く繋がっていけるような仕掛けがあれば良い。**

○　栗原地域からは古川方面や仙台方面へ進学する生徒が多くいる。新幹線通学や家族の送迎など、大きな負担をかけながら進学しているケースもある。そのため、栗原地域にも進学を重視する学びの選択肢がほしい。

県民との意見交換会

＜拠点校・オンライン＞

○　現在中学生と小学生の子どもがおり、仙台への通学は大変であり、体調や塾のことを考えると、地元の高校などに入ってオンラインコンテンツや充実した授業で次の進学を目指せるのが一番良い形であると思っている。経済的な理由で諦める保護者もいると思うので、**今回の計画のように拠点校が全県一区の中で盛り上がっていける取り組みには賛成であり、ありがたい。**

○　気仙沼の子供たちは選択肢の少ない中から学校を選ばなければならない。仙台であれば私立など選択肢が多く、通学も容易だが、気仙沼では中学校3年生で夢が固まっていない中で数少ない選択肢から選ぶことになる。**オンラインを使って受けられる授業の選択肢が増えるのであれば、仙台まで行かなくても勉強ができるというメリットになるのではないか。**

○　高校生と話をすると、「この中から選ぶしかなかった」という子もいる。入学してから「何か違う」と悩み、中学生のときにもっとよく選べば良かったと言う子もいる。そうした子たちが将来を考えるときに、**「こういう授業も受けられるんだ」という選択肢が少しでも増えれば、将来が広がると思う。そういうところにオンラインを活用してほしい。**

○　オンラインについて、時間割のほとんどは学校にいる先生から教わり、一部の専門的な教科だけがオンラインになるのか。週30時間の授業のうち、せいぜい2時間から4時間程度ではないか。

県民との意見交換会

＜通学手段＞

○　我が家で一番上の子が小学6年生だが、昨年中学受験を検討した際、周辺に塾がないことに気づいた。**高校や中学校を検討する上で通学や学習の手段がないと、選択肢が非常に狭まってしまうと感じる。**

○　全体的に生徒数が減っていく方向であれば学校統合も理解できるが、遠隔地からの通学が発生すると思う。その場合、公共交通機関の維持や、通学困難地域への対策は合わせて考慮されているのか。

○　地区ごとで見てもかなり高校が少ないところもあるので、**場所によっては本当に通いづらいとか、そういったところが気になる。部活動はどうなるのか。**

○　交通の便については、小中学校のバスとかに乗せることや、単独校での存続という方法もあるが、乗り継いで通えるように（バス等の）選択肢は考えられるか。

○　キャンパス校の活用や再編を進める場合、スクールバスなど通学手段の確保も重要になる。

○　現在、気仙沼中心部に志津川から通っている子もいる。志津川の子の多くは登米市内の高校に進学する。志津川からBRTも出ているが、1時間では難しい。

○　電車も時間に限りがあるし、志津川から気仙沼に通うのは大変だろうと思った。1校だと大変なので、できたら、2校でお願いしたい。

○　北部アイデアルができることで、県北から仙台へ通う生徒を減らし、県北の生徒は県北で学べるようにする考え方もあるのか。

県民との意見交換会

＜学校規模＞

○ 定員に余裕がありすぎる状況になると、受験競争も弱まり、学習意欲への影響も心配。一定の緊張感は必要だと思う。

○ 郡部から仙台へ生徒が流れる背景には、学校規模の問題もある。生徒数が減ると部活動の選択肢も少なくなる。ある程度の学校規模があれば、部活動や学校行事なども活発になるので、その点も考えてほしい。

○ 地域づくりのところでも高校生は引っ張りだこで、イベントでの演奏やボランティアを頼まれるが、生徒数が少ないので参加が難しいことがあり、小規模校では限界がある。圏域を広く捉えることで子どもたちの活躍の場が広がるのではないかというイメージを持っている。横にどんどん繋いでいかないと無理だなというのが現状。

○ 少人数すぎるとクラス替えもなく社会に出たとき怖さもあるので、ある程度の人数を集めたほうが良い。

○ 大規模校では生徒数が多いため、一人一人への細かな対応が難しい場合がある。不登校傾向になった生徒への支援が十分行き届かず、結果的に退学につながるケースもあると聞く。あまり大規模になり過ぎない方が、生徒にとって良い面もあると思う。

県民との意見交換会

＜学級規模＞

○　令和21年の必要学級数は40人学級を前提に設定されていると思うが、令和21年までずっと40人学級が続くという想定なのか。少人数化を図り、現在の学級数を維持することはできないのか。

○　国の方針に沿って少人数学級が決まったらそれに沿ってやっていくということだが、県独自に少人数学級を進めていくというビジョンはないか。

○　保護者も本人も「学力を上げたい」と思っている人は多くいる。少子化でクラス数が減っていく中で、自分の子の学力に合った学校をどう選ぶかは難しいと感じる。仕事で学習塾をしているが、生徒たちも「ここは無理だからここ」といった選び方をしていて、入学後の学習内容にギャップを感じる子もいる。少人数授業などを生かして対面で手厚く見ていただけると、満足度も学力も上がるのではないか。

○　少子化だからこそ手厚い教育環境を作るべきであり、国を待たずに県独自で20人学級などの少人数化を行い、地域校を残してあげるプレゼントをしてほしい。

県民との意見交換会

＜転入・編入等＞

○ 「高校中退の削減」を行政目標として明確に設定していただきたい。私どもの調査で、就労している発達障害の方のうち、37%が高校中退を経験していた。現場の高校では退学を防ぐため手厚い配慮を行っている学校もある。**専門的な知識を持つ教員を配置し、高校中退を防ぐ取り組みを強化していただきたい。**

○ 不登校の問題を非常に心配している。学校に通える生徒は良いが、高校に進学したものの途中で通えなくなり、ドロップアウトしてしまうケースがある。中学校は義務教育のため、出席日数に関わらず教員がなんとか学校へ復帰させようと支援するが、**高校は出席日数が満たないと退学になってしまうという厳しいイメージがある。そうした生徒たちを取りこぼすことなく、他の学びの場へスライドさせたり、学びの多様化学校へ転入させたりするなどして、なんとかすくい上げられるような高校教育のシステムになってほしい。**

○ 最近、広域の通信制高校がすごく増えており、県立高校を希望する子が少なくなっている現状についてどう考えているか。通信制高校の実態として、本当に全員が3年間で卒業できているのか、途中でドロップアウトしていないかという懸念もある。

○ 家庭の事情（親の介護等）で県外から宮城県へ戻る際、長男の転入学を相談したところ、「履修科目が異なる」という理由で何校にも受け入れを断られた。最終的に私立にお世話になったが、移住や引っ越し等のケースにおいて、補講などの柔軟な代替措置が制度・運用面で講じられなかったのだろうか。学力基準を満たしているのであれば、受け入れ体制を柔軟にしていただきたい。

県民との意見交換会

＜学校に登校していない生徒への対応＞

○　少子化に伴ってこの案が出されたということばかりが印象に残ってしまって、実際は不登校の子どもが多いことや、学校が減ったら先生の数も減る。少人数学級にすれば問題もなく、ここまで学校を減らさなくてもいいのではないかと思う。**不登校が増えている背景も考えた上で、新しい案を作っていくべき。**

○　学校を統合して学校規模を大きくするのではなく、**少人数で手厚く教育するという方向もある**のではないか。人数が少なければ、生徒一人一人に目が届きやすくなり、不登校や学習支援にも対応しやすくなると思う。

○　不登校や発達障害を抱えながら普通高校に在籍する生徒が急増している現状において、特別支援学校と普通高校との連携や繋がりがますます重要になっている。普通高校側においても特別支援教育の分野を重点化することが強く求められている。その点を明確にして、是非取り組んでいただきたい。

○　不登校の生徒は真面目な子が多く、学力や生活態度に問題がなくても不登校になるケースが結構ある。成績も非常に良い場合が多く、アイデアル的な環境があれば進学希望の生徒とも対等にできる力を持っている。**アイデアルの要素を取り入れる場合は教員の定数を増やすなど検討を**いただきたい。

県民との意見交換会

＜義務教育との連携＞

○　学力が達していない生徒を入学させた結果、途中でリタイアしてしまうケースも散見される。義務教育の段階では周囲がサポートするが、高校に入るとそこまできめ細やかな対応は難しく、結果的にドロップアウトしてしまう生徒もいる。提言としては、**中学校と高校の連携を強化していただきたい。**現状、義務教育と高等教育の間で断絶があるように感じる。高校側はオープンな姿勢で働きかけているものの、小中学校側が閉鎖的で、評価を気にしているのか連携に消極的な印象を受ける。この壁を突破できれば良いのではないか。

＜生徒を主語にした高校教育の実現＞

○　地域の声や伝統も大事だが、「学校はそもそも誰のためのものなのか」という原点をしっかり考えないと、ただの設置場所の議論になってしまう。**これから通わせる保護者や子どもたちの声を重点的に拾って考えていただきたい。**

○　これだけ子どもの人数が減っていれば、こうした学校再編の流れはやむを得ないことだと受け止めている。今回4校という案だが、人口が多い地域や通いやすいエリアなどが考慮されて選定されていくのだと思う。ただ、地域から上がってくる声と、今後子供を通わせたい保護者の声は必ずしも一致していないと思っている。地域の方々が「学校を残してほしい」という声が大きいのも分かるが、保護者からすると「通いやすさ」や「特色がある学校」に通わせたいという現実がある。

県民との意見交換会

＜学区の在り方＞

○　全県一学区であると、より一層郡部の学校を魅力に感じなくなって、仙台集中になっていくのではないか。少なくなればなるほど、そこに行きたいと思う子どもたちがいるのかと思う。**地域にたくさんの高校があり、選べるという状況になってほしい。**

○　全県一学区化により仙台圏の高校に流出する傾向があるが、各地域に学びの拠点を残し、学区のあり方も再検討すべきではないか。

○　宮城県では仙台への一極集中が顕著。成績上位層がこぞって仙台を目指す状況では、各地域で優秀な人材が育つ循環が生まれにくくなる。**石巻などの地域でも、東京の大学に進学するような生徒がコンスタントに輩出される学校があっても良いのではないか。**高校の力量のバランスを考慮していただきたい。

＜教職員の確保＞

○　今後の高校教育における教師の役割の位置付け、そしてその教師をどのくらいの人数確保していくのかということを前提にしなければ質の向上は望めない。

○　郡部の高校の魅力を高めるためには、施設だけではなく教員配置も重要。例えば進学指導や探究活動に力を入れるのであれば、それに対応できる教員が必要になる。**地域の学校にもしっかり予算を配分し、人材を配置してほしい。**

県民との意見交換会

＜その他＞

○　地区の呼び方について、**「北部」「東部」「中部」「南部」とある中で、なぜここだけ「気仙沼地区」なのか。「北東部地区」などにするのが自然ではないか。本吉や南三陸も含めた地域のため、名称の変更をご検討いただきたい。**

○　統合によって新しい学校ができる際、校名や校歌が変わることで地域とのつながりが強くなるケースもあると思う。**早めに将来の姿を示し、地域住民と一緒にワークショップなどで新しい学校の在り方を考える機会があると良い。**

○　気仙沼は人口減少が著しいので、魅力ある学校づくりや中学校との連携を早めに進めて、ワークショップなどを立ち上げて、新しい高校の姿を、地域のみんなで議論していきたい。

○　再編によって地域と高校とのつながりが弱くなり、地域の活力そのものが失われてしまうことは避けてほしい。

○　普通科の見直しにおいて「地域と協力して」という探究活動のお話があったが、生徒が集まる地域自体も過疎化している。**地域と連携するという言葉は素晴らしいが、本当に地域に根ざした研究や探究ができるのか**疑問である。

○　ストレスフリーな学校を目指しているのか。近年、若者が就職後に早期離職してしまうことを聞くが、学生時代にストレスが過度に軽減された結果、就職後の負担に耐えられないのではないか。すべての学校をストレスフリーにしてしまうと、社会に出てからより苦労するのではないか。

○　アイデアルスクールのような学びを深めることも大事だが、社会で活躍する上で最も大切なことは「人との関わり」である。体育祭や合唱コンクールといった学校行事は、人間関係や絆を育むために大事な機会であるが、そうした行事は実施されるのか。

県民との意見交換会

＜その他＞

○　普通科、農業、工業、商業など、すべてを一つの学校にまとめる考え方については心配もある。進学を目指す生徒と職業教育を受ける生徒が同じ学校にいることで、学校の方向性が曖昧になるのではないか。普通科高校は普通科高校として残した方が良いという考えもある。

○　白石高校の看護科について、市外からも生徒が来ており、昔とは環境も変わってきている。時代の変化とともに必要性がどう変わっているか迷うところだが、県内で集まりやすい場所に配置した方が良いのではないか。

○　今現在の学校で必要なものすら揃わないのに、早ければ1年でハード面でもソフト面でも、その方針が必要とされる。本当の意味で必要な予算が割り当たっていない教育を、本当**にたった14年で予算を確保して、そしてその先10年、20年と、サステナブルな感じで行けるのか**どうか。

○　適正規模を維持するためにという論理で考えてきているのは分かるが、今から先、その考え方でやっていくと、地域ごとの消滅をますますスピードアップさせる。そうすると教育委員会だけでは手に負えなくなるかもしれないが、県全体として周縁化が進んでいる地域の中にどういう県の力を注入していくのか、それを是非考えてほしい。

○　より良い学校作り、子供たちが良くなって将来的に元気になって宮城を元気にしていく、一人一人が充実して元気にしていくという計画であり、この計画に賛成する。

○　公立だけ再編して、私立には何も求めないというのは難しい。補助金も出ているし、全体としてのバランスを考える必要があるのではないか。

地区別高校在り方懇話会

＜高校魅力化・学びの在り方＞

市町村

○　自治体として職員の確保が難しい状況にあるので、土木の技術者を養成するような内容も考慮に入れていただけると、市町村としては助かる。

○　南部地区の自治体の中学校3年生の多くが、中部地区（仙台圏）の高校に進学している。令和21年、生徒数がさらに減った際、南部地区に「通いたくなる魅力ある学校」があるかどうかがポイントになる。

○　公立高校にお願いしたいことは「出口」をしっかりと示してほしいということ。つまり特色。大学進学は様々なバリエーションができる、自己達成ができる普通高校や就職に強い高校。公立高校の出口をはっきりとした学校作りということが大きい。

○　公立の宮城大学等との高大連携において、県立高校向けの優先枠・推薦枠を設定することはできないのか。私立高校が強いのは系列大学の存在があるからであり、**公立高校においても、宮城大学等との強い接続を示すことができれば、公立高校の大きな強みと魅力になる。**

○　大学進学だけがゴールではなく、専門高校からの進学も含め、子どもたち一人ひとりが「生きる力」を育み地域を支える人づくりとなるような大局的な視点で高校教育の在り方を提示していただきたい。定員・倍率による緊張感といった旧来の意識にとらわれず、質の高い学びの環境整備をお願いしたい。

○　子どもたちが明確な将来の夢や目標を持って目指せる「魅力ある高校づくり」をお願いしたい。**学力偏差値だけでなく、特定の分野で突出した強みや関心を持つ子どもたちが個性を伸ばせるような魅力的な選択肢を地方圏域にも広げていただきたい。**

地区別高校在り方懇話会

＜高校魅力化・学びの在り方＞

市町村

○ 「地域に必要な高校をどう残すか」と考えた際、学びの類型で学級数をカウントしてしまうと、今後の展開が苦しくなるのではないかと感じる。農業系、工業系、商業系といった従来の枠組みで学級数を固定することが、10年先の高校生にとって適切なのか。

○ これから10年先を見据えた計画としては、「普通」という言葉を変えた方が良いのではないか。例えば実業系からでも大学へ推薦で行ける時代。考え方を変えて示した方が良いのではないか。

○ 町内唯一の高校について、町と大学、高校との包括連携協定を結び、探究学習「地域創造学」の展開や全国募集への支援などを行ってきた。今回の計画案で示された将来の学級数削減や再編は、町民に「学校が無くなるのではないか」という大きな不安を与えている。単に学級数を減らすだけでなく、既存の高校を維持しながら中学生が魅力的な学びを選べるような視点も取り入れて検討していただきたい。

地区別高校在り方懇話会

＜高校魅力化・学びの在り方＞

PTA関係者

○　子供たちがなりたいものになれる学びの選択肢が維持されていることが重要。

○　早期に夢を持てない生徒やモラトリアム期にある生徒に対しても、多様な選択肢とチャンスを残す仕組みをお願いしたい。

○　主役である子供たちの未来を支えるため、家庭・学校・地域・産業界（産学官民）の連携が不可欠。県立高校が「産学官民連携のフィールド」となり、企業と高校が対等に協力し合えるプラットフォームを構築していただきたい。大人が魅力的な社会の姿を子供たちに示すことで、生徒の主体的な学びを引き出していただきたい。

○　現在の高校進学は、文系・理系といった区分や偏差値に基づく受験によって、高校に入学した時点で将来の進路がある程度固定化されてしまう傾向があると感じる。偏差値ありきの学校選びから脱却し、各地域・各学校ならではの学びを提供していただきたい。そして**「高校でこういうことを学んだから、大学卒業後は地元に戻って働こう」と思えるような、魅力ある高校づくり**を進めていただきたい。

○　県内どこに住んでいても希望する進路を実現できる仕組みづくりは、保護者にとって非常に重要である。定員や倍率による圧力や脅しのような進路指導ではなく、生徒自身が将来の生き方を能動的・主体的に考え、自己実現に向かって学べる教育環境・仕組みづくりを学校教育の中で推進していただくようお願いしたい。

○　現在、大学進学率は非常に高くなっている。普通系高校はもちろんのこと、**職業教育拠点校などを選択した場合であっても、生徒が希望すれば大学進学に対応できる教育環境や学習支援体制をしっかりと整えていただきたい。**

地区別高校在り方懇話会

＜拠点校＞

市町村

○　進学系拠点校は面白いと感じた。**中部地区以外の圏域で学力を高める拠点を充実させることは、県全体の魅力を高め、一極集中を緩和させることにつながる。**

○　**進学拠点化やアイデアル校のような新しい取り組みは非常に良いと思う。**しかし、各地区に残る普通科の高校について、どのような特色や位置づけを持たせるのかが課題だと感じる。専門学科や新しい枠組みの学校は特色が分かりやすいが、従来の普通科高校については、教育委員会として明確な方針を示し、校長が代わっても継続して特色ある教育を実現できるような担保が必要である。

○　中部に進学系がほぼ半分くらい集まっているということで、このままだと大学に進学したい子は仙台にみんな集まってしまうのではないかという懸念がある。

地区別高校在り方懇話会

＜学校規模＞

市町村

○　学校の在り方を検討していく中で、学級数、先生の人数ということになってくる。理科であれば物理・化学・生物・地学、社会であれば日本史・世界史・地理・倫理・政経とたくさんある。**再編をしたとしても、マイナーな科目についても先生が配置できるような、そんなビジョンで考えていただければ、入学した子供たちがそれぞれの科目を選ぶ余地が出てくる。ひいては子供の将来の選択肢を広げることになる。**そうした余地を残すような学校であってほしいと思う。

○　石巻市では長年、全国学力テストの結果が県平均を下回る状態が続いている。その要因の一つとして、少子化により定員割れしている高校が多く、「勉強しなくても高校に入れる」という意識が子どもたちに広がっていることが挙げられる。**競争がない環境では、学習意欲を喚起することが非常に困難。定員割れの状況を解消し、ある程度の競争性を維持することが、子どもたちに学習の動機付けを与える上で必要**だと考える。

PTA関係者

○　**少子化による学級減は避けられないと思うが、一定の集団規模は必要だと感じる。**複数学科を1つのクラスで運営するなど、工夫しながら子供の数を確保するような検討をお願いしたい。

○　保護者目線としても、1倍を切る定員割れの状態が当たり前になることには危機感を持っている。**子どもたちが競争を経験せずに高校生活を終え、大学受験や就職で初めて厳しい競争に直面した場合のダメージを懸念している。ある程度の競争ができる環境を整えることが望ましい。**

地区別高校在り方懇話会

＜通学手段＞

市町村

○　学校が少なくなると行くところが限られてくるので、街の子供たちと地域の子供たちでは経費が違う。地域の子供たちの通学を補助するようなシステムなどができると保護者も安心すると考える。10年後には半分の生徒になるので、考慮していただければと思う。

○　これくらい学級が減るとなると、少なからず集約ということが考えられるかと思うが、自分の自治体でも私立に行く子が増えている。無償化になる前から増えているが、理由は私立高校はスクールバスを出すので、通学のメリットが大きいからである。私立に行く子が半分くらいいるような状況。 地元に県立高校があり、公立を志望する子はその県立高校に行く子が多いが、「自力で通えるから」という理由が大きい。**観点の1つとして交通アクセスというのも非常に大きい意味を持つ**というところは、考えていただけるとありがたい。

○　広域通学となる地域においては、スクールバスの予算面での難しさも踏まえ、**「フレックスタイム制」の導入など柔軟な登校・対面機会の確保を**ご検討いただきたい。

○　圏域統合に伴う広域化においては、交通アクセスと合わせて寮などの受け入れ態勢の整備方針を明確に示していただく必要がある。また、これからの時代に対応する半導体やIT関連分野の教育内容を具体的にどのように取り入れていくのか、さらに私立高校との役割分担やすみ分けについてどのような見通しを持っているのか、より分かりやすい具体策の提示をお願いしたい。

○　郡部では交通アクセスの整備が極めて重要な課題となる。また、地元の高校の魅力を高めるため、かつて登米総合産業高校を設立した際のように、**産業界・小中学校・地域代表者などを巻き込んだ「パートナーシップ会議」のような検討組織を早急に立ち上げて、地域ぐるみの魅力ある学校づくりを**進めていただきたい。

○　人口減少は県全体の横断的な課題。**教育界だけで解決できない交通アクセスや産業界との連携については、県庁横断的に産業界等のパートナーと協議して進めていただきたい。**

地区別高校在り方懇話会

＜義務教育との連携＞

市町村

○　今回単なる従来の生徒数の減少に合わせた学級減や統合再編ではなく、教育や学びの方法、地域との連携のあり方を含めた抜本的な見直しといった高校改革を進めていく中でぜひとも中学校との学びの連続性であったり、教育課程との切れ目ない学びの連続性のところも含めた形で高校改革を進めていただきたい。

PTA関係者

○　本計画は長期間にわたる計画であるため、**次の世代へ引き継いでいくことが非常に重要かつ困難**であると感じている。**ぜひ小学校・中学校・町のPTA保護者の方々も巻き込んで進めていただければ**、よりリアルに繋いでいけるのではないかと思うので、ご検討をお願いしたい。

○　小・中学校での探究学習や個別最適な学びの変化が高校再編へとつながっているストーリーを保護者に分かりやすく伝える必要がある。

○　偏差値や学力検査だけでなく、小・中段階で育んだ興味・関心や学びの意欲・課題解決能力を適切に評価できる入試制度（面接や意欲重視の選抜等）を整備・提示していただきたい。

地区別高校在り方懇話会

＜周知・理解促進＞

市町村

○ **今回の再編は現在0～5歳の幼児を持つ保護者に直接関わる問題**である。説明会への参加者が少ないとのことだが、保育所・幼稚園・小中学校やPTAの機会を通じた積極的なチラシ配布や情報提供を行い、**早い段階から関心を持ってもらえるような工夫を**お願いしたい。

○ いくら立派なビジョンや指導要領を作っても、現場の教員がその理念を理解し実践しなければ意味がない。教員の意識改革と新しい教育スタイルへの理解促進を強く意識して進めていただきたい。

○ 現状を受け止めた上で地元の高校の魅力をどう高めていくかが課題である。未来の保護者層へしっかりと届くよう、町と連携して広報・意見収集を進めていただくようお願いしたい。

○ 実質負担の増大などが指摘される中でも私立高校への流出が見られるが、**公立高校が果たしている多角的な進路指導や手厚い教育活動の魅力を、もっと積極的にアピール・宣伝していくべき**ではないか。

PTA関係者

○ 子供たちに「何がやりたい？」と聞いても、「分からない。とりあえず普通科」となる。中学生でもやりたいことが見えている子は良いが、そうでない子もたくさんいる。「こういうことがしたいから私立に行きたい」というのであれば親はバックアップするが、そうでなければ情報が必要。これだけ真剣に考えてくださっていることは、一般の保護者には伝わっていないのが現状。**ぜひ一般の方々へのアピール**をお願いしたい。

○ 学校の再編統合は、子供たちにとって生活環境や将来に直結する大きな変化であり、大人が思う以上に不安を感じる部分である。取り組みの段階から、当事者である子供たちに対して丁寧に周知を図っていただきたい。

○ 少子化の中で学校再編が避けられない現状について、**丁寧な説明を通じて理解者を増やすことが最も大切**であると考える。

地区別高校在り方懇話会

＜多様な学びの在り方＞

市町村

○　生徒数自体は減少していても学級数は減っていない。特別支援学級に在籍する生徒や、通常の学級にも配慮を要する子供たちが増加しているためである。外国籍の子供たちや、不登校の子供たちも増えつつある。そうした**多様な背景を持つ子供たちの受け皿としての機能も高校の役割**に含めていただきたい。

○　現在、小中学校で日本語指導が必要な外国籍の児童生徒が増えている。ひらがなや漢字の習得には時間を要し、未消化のまま高校年代を迎えるケースも少なくない。これから地域で働いていく外国籍の方々が語学や基礎を身につけて社会に出るための出口として、高校教育が大きな役割を果たしていると感じている。学びの多様化学校や高校の機能の中に、外国籍の方々が地域で活躍できるための受け皿や教育機能を含めていただきたい。

地区別高校在り方懇話会

＜転入・編入等＞

市町村

○　特定の専門学科に入学した後で進路変更を希望した場合、単位の互換性がないために身動きが取れなくなるのは非常にもったいない。**地区内だけでも単位の共通化を図るなど、柔軟な仕組みが必要ではないか。大学進学を目指しながら農業の現場を知るといった、分野横断的な学びが今後さらに重要になると思う。**こうした教育内容の柔軟性についても合わせて検討いただきたい。

○　生徒が高校進学後に進路変更や学び直しを行えるよう、学校間での「単位の互換性」や柔軟な転学システムなど、マルチステージな機会を保障する高校教育の理念を前面に打ち出していただきたい。

PTA関係者

○　中学校時代に不登校だった生徒が高校で心機一転スタートしても、人間関係等で再び通えなくなってしまうケースがある。現在、県立高校間での転校・編入は保護者の転勤等に限られているため、私立高校へ転校せざるを得ない現状がある。**県立高校から別の県立高校へ柔軟に編入・再チャレンジできるシステムを構築していただきたい。**また、通信制高校が現在中部地区にしか設置されていない点についても、各圏域のアイデアル高校内に通信制機能を盛り込むなど、多様な子どもたちに対応できるようご検討をお願いしたい。

地区別高校在り方懇話会

＜その他＞

市町村

○　地元の生徒は半々くらい、半分が管内に進学している状況。ただ、仙台管内からもこちらの方にだいぶ来ているということで、隣接する圏域とかなり動きがある。県内1つの学校とお話しされているが、大きく捉えての再編が大事なのかなと捉えている。

○　この将来ビジョンを見ると、宮城県の高校教育についての大きな改革のようにも感じる。地方自治体の協力もないとできないのではないか。

○　高校再編の必要性については理解している。普通校と実業校（商業・工業・水産・農業等）のバランスについて、各圏域のニーズに合わせた適切な配置バランスをしっかり確保していただきたい。

○　高校の再編自体はやむを得ない面があると認識しているが、**地域から高校が消滅した場合、教育環境の低下や人口減少への拍車、地域社会・地域連携への甚大な影響が懸念**される。社会情勢や地域に与える影響をどこまで加味して計画を策定しているのか。また、高校がなくなった地域との連携をどのように継続していくのか、教育委員会だけでなく県庁全体・全庁的な取り組みとして検討していただきたい。

○　管内においても水産業や農業などの専門教育や遠方通学などの課題が多いので、地域の実情に応じた学びの場が維持できるよう、十分にご相談させていただきながら進めていただきたい。

○　14年間で統合再編を進めていくにあたっては、第1期・第2期・第3期と3つの期に分けて、第1期目でここの学校、第2期目でここの学校という風に割り当てられると思うが、まずどこから取りかかるのかはどういう基準で行うのか。

地区別高校在り方懇話会

＜その他＞

市町村

○　気仙沼市のような郡部では小規模化やキャンパス校化が懸念されており、郡部校において思い切った魅力化を行わないと、仙台圏への生徒集中や人口流出がさらに加速してしまうのではないかと懸念している。県として運用面や制度面（定員枠の設定や教員配置の柔軟化など）で従来の枠組みを超えた柔軟な対応を行う考えがあるか伺いたい。

○　学科で進路を選び、遠くになってしまったために中学校までやっていた部活動を続けられなくなったという子がいる。また、部活動を続けたいから、どの高校に行こうか検討している子もいる。子供たちにとっては、将来を見越した学科選びも大きな選択肢だが、同時に部活動を続けたいという思いもかなり持っている。